

広報

# もりの 中部の森林



10月は木材利用促進月間

写真：「カラマツ黄葉」(中信署管内)

## 特集

- ・農林水産副大臣による東信森林管理署管内の現地視察
- ・パトロール特集
- ・「自然を守る森林官になりたい」小学6年生の職場体験入門

## 各地からの便り

地元の公民館主催による国有林見学会の開催 ほかに

## シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



国民の森林・国有林

林野庁中部森林管理局



私の森語り「森で愛ましよう」  
ミス日本みどりの大使 上村さや香



2023/No.235

かつまた  
勝俣農林水産副大臣による  
東信森林管理署管内の  
現地視察

【東信森林管理署・企画調整課・資源活用課】

八月二十九日、勝俣農林水産副大臣が、国内林業の再生や成長産業化、丸太の生産、流通の現状を学ぶことを目的として、東信署管内の素材生産現場と東信木材センター協同組合を視察されました。



訓示を行う勝俣農林水産副大臣と東信署職員

午前十時頃、長野県佐久市に所在する東信署に到着された副大臣

は、職員への訓示において、「職員の皆様には、日頃から現場の最前線で国有林野の管理経営にご尽力いただいている。近年は、大規模な豪雨災害や土砂災害が発生することから、林野庁職員として、国民の生命・生活を守るために、まずは間伐などの森林整備や治山事業を着実に実施していただくことが重要。また、山地災害が発生した際には、地域のために何ができるのかということに即座に考え、初動対応や速やかな復旧に取り組んでいただきたい」と述べられ、「人工林資源が本格的な利用期を迎えている今、地域の林業・木材産業の活性化に国有林としてどのように貢献していくか考え、広大なフィールドを有する国有林がその組織・技術力を活用して施業の低コスト化等の新技術の実証に積極的にチャレンジし、その成果を民有林へ発信することにより、地域林業の活性化、そして、我が国全体の林業の成長産業化の実現に貢献していただきたい」と

の激励を行いました。

訓示後、国有林の制服に着替え、香坂山国有林で素材生産現場を視察されました。

国有林の最前線で働く若手森林官等が現場を案内し、まずは、真田森林官から、国有林の分布状況や森林整備事業の概要、作業システムなどについて説明し、高性能林業機械のプロセッサやフォワーダが連携し、作業する場面を見ていただきました。

副大臣から、森林官の業務について質問があり、真田森林官からは、「各種事業の監督業務や国有林の管理を行っており、現場業務の比率が多い」旨を回答しました。また、作業を行っている有限会社中島林業との意見交換では、若手社員の定着状況や、現場作業の大変さなどについて質問され、「高性能林業機械の導入により、省力化・効率化が図られ、オペレーターとして若手や女性も増えてきているが、暑い時期の人力による下刈り作業はとて大変」などの実態を確認されました。

続いて、ドローン（無人航空機）の活用について、佐久森林官から、業務への活用方法を説明し、森林情報管理官が事業地の上空にドローンを飛行させ、その空撮映像を大型モニターでご覧いただきました。「署の職員のうち、どのくらいの方がドローンを操縦できるのか？」との質問があり、「ほとんどの職員が講習を受け操縦することができま



森林官から高性能林業機械での作業を説明



職員が操作するドローンの空撮映像を確認

大変感心されていました。  
次に、造林作業の効率化について、佐久森林官からコンテナ苗の利点や植栽方法の説明を行い、充電式の電動ドリルで植穴掘りができる「植穴名人」を使い、コンテナ苗の植栽を体験していただきました。

続いて、アウル(地上型3Dレーザ)の活用について、局資源活用課の主任主事から説明し、実際に計測したデータを確認していた際、立体的に見えるデータに



「植穴名人」を使ってコンテナ苗の植栽を体験

感心し、「こうした機器を用いて継続的にデータを蓄積することが重要」とのコメントがありました。  
昼食の時間には、森林官も同席し、副大臣と、子育て世代のサポートやワークライフバランスについて、意見交換をしました。真田・佐久両森林官とも育児休業を取得した話や、局全体での取得状況などが話題となりました。

午後は、東信木材センター協同組合連合会に移動し、小相沢専務から、東信地域の木材流通や出荷



職員からアウルを活用した森林資源調査について説明

量、販売先・用途等の概要について説明を受け、施設内の丸太の自動選別機等を視察されました。副大臣から選別するときの視点について質問があり、原木の状態(直材か小曲りか、また、節や空洞の有無など)を見極めて行っている旨の回答がありました。

視察を終えた副大臣からは、「若い人たちが、しっかり林業に従事できるような取組、林業を支える人材を育てることが大きな課題の一つ。ドローンや現場での



東信木材センター小相沢専務から木材流通等について説明

調査、人の手で行っていたところの効率化が絶えず進んでいるという実感があり、先進的な機械を導入し、作業を効率化していくことが非常に重要だと感じた。現場の最前線に立つ皆さんには、目の前の課題に一つ一つ取り組んでいただくことが国民の期待にこたえることにつながるのだと思う。私も副大臣という立場で皆さんと一緒に森林・林業の課題解決に挑戦していきたいと思っています」とのお言葉をいただきました。



室堂のパトロール員が日々の活動後に眺めていた夕日に映える立山

四年ぶりに全地区での  
高山植物等保護  
パトロール実施

【富山森林管理署】

今年度も北アルプスの高山植物等保護パトロール（通称・グリーンパトロール）を実施し、室堂平周辺で活動する立山地区は、七月十九日から八月十七日までの約一ヶ月間、また、稜線で活動する薬師岳・雲ノ平地区（雲ノ平・三俣蓮華岳・薬師岳・五色ヶ原）、黒部地区（針ノ木岳・白馬岳）及び白馬・朝日・北又地区（朝日岳・白馬岳）は八月三日から二十二日までの二十日間にわたっての活動を行いました。

今年にはコロナ禍以降、四年ぶりに四地区全てで実施し、一般公募の二十代から五十代の男女十三名での活動となりました。

この活動は、地元自治体や山小屋関係者、関係団体からなる国有林野保護管理協議会が、パトロール員を募集し、高山帯の動植物の保護や山岳美化、登山マナーの啓発等を目的に昭和四十七年から始



看板の補修を行うパトロール員

まり今年で五十一年目となりました。パトロール期間中は、室堂の施設を拠点とした活動や稜線の山小屋を移動しながらの活動となるため、普段の生活とは環境が大きく異なり、危険を伴いますが、病气やケガ等もなく全員無事下山することができました。最終日の解団式では、パトロール員から活動報告が行われ、登山者のストックキャップの未装着、登山道の老朽化、外来植物の侵入の拡大等について意見や課題が報告されました。

## 高山植物等保護パトロール

### 【中信森林管理署】

七月下旬から八月上旬にかけて、上高地、美ヶ原、白馬、乗鞍の四地域で、それぞれ一日ずつ高山植物等保護合同パトロールを実施しました。

この活動は当署長が会長を務める「高山植物等保護対策協議会中信地区協議会」が毎年実施しているもので、入込者の多い登山道や遊歩道沿いを中心に、高山植物等保護の普及啓発と美化活動を行っています。活動の参加者は協議会員やその他関係団体で、今年度は延べ四十七名が活動に参加しました。

### 〈特集／パトロール特集〉

当日は、高山植物等保護啓発カードを配布し、「植生保護のため、グリーンロープ内には入らないようご協力ください」「植物の摘み取りはしないようお願いします」など、訪れた家族連れ等呼びかけ、同時にゴミ拾いも行い、四地域合わせて七・五割のゴミを回収しました。



啓発カードの配布（表面は高山植物やライチョウの写真、裏面をお願い事項を記載）

当協議会では、長年このような啓発活動を行っていますが、立入禁止区域に立ち入ってしまう人は後を絶ちません。また近年、乗鞍ではマイカー規制後に高山植物が増加傾向にある一方で、高山植物の宝庫である白馬では、ニホンジカが高山帯まで侵入しており、食害が心配されています。引き続き、定期的なパトロールを継続するとともに、山小屋関係者との協力をはじめ、効果的な保護対策を模索していきたいと考えています。

## あもろう 天生県立自然公園 合同パトロール 利用者目線で安全チエック!

### 【飛騨森林管理署】

八月二十二日、飛騨市河合町天生国有林及び白川村大瀬戸国有林内の天生県立自然公園内において、天生県立自然公園協議会（以下「協議会」）、岐阜県飛騨事務所、飛騨市消防本部、飛騨警察署等の関係機関とともに合同パトロールを実施しました。

同自然公園は、標高約一、四〇〇以上に広がる約三ヶ所の高層湿原のほか、ブナ等の原生林、急峻な渓谷と連続する滝を見ることができ、約一、六〇〇の山岳公園で、湿原を周遊する探勝路や標高一、七四四の靱糠山へ至る登山道などが協議会により整備されており、初夏から秋にかけて多くの方が訪れる場所となっています。

本パトロールは、秋の行楽シーズンを迎える前に歩道や休憩所など、施設の状態と案内標識などについて各機関の立場で確認し、安全上の留意点や改善点などを明ら

かにすることで利用者がより安全に利用できるように行われました。

二班に分かれ、ゆっくりと歩きながらパトロールを行い、当署では歩道沿いにある枯損木に主眼をおいて確認しました。

昼食をはさみ、約四時間かけてパトロールを終えた後、参加者による意見交換が行われ、歩道に敷いた板が腐食し交換が必要なこと、携帯電話が通じない地域で無線による緊急要請をする場合の留意点等について活発な意見が交わされました。

協力し合い、安全かつ快適に利用できるよう取り組んでいますので、紅葉シーズンには多くの方に訪れていただければと思います。



今年度設置された熊注意看板

富山市内の小学6年生が「夢の卵」育成事業で職場体験

【富山森林管理署】

富山県では、小学五・六年生及び中学一・二年生を対象に、描いている将来の夢の作文を募集し、その夢の実現をサポートする「夢の卵」育成事業を、(公財)富山県ひとづくり財団が二十年近く続けています。

今回、応募総数一、〇八九通の中から「自然を守る森林官になりたい」というタイトルで優秀賞に選ばれた富山市内の小学6年生、寺本芽生(てらもと めい)さんは、四季を通じて自然と触れ合ってきた中で、自然を守り未来へ残してゆくことを自身の夢と捉え、それに関わる仕事について調べたところ「森林官」という職業にたどり着き、作文につづりました。

これを踏まえ、財団から職場体験の要請があり、当署が予定していた八月二十二日から二十四日までの職場体験プログラム(インターンシップ)に参加の大学生二名とともに二日間の短期入門が実

現しました。

一日目は、間伐の作業現場を見学し、神通森林官から木材の伐採・搬出状況の説明を行った後、輪尺での胸高直径の計測やパーテックスでの樹高測定等の立木調査、ドローンによる上空からの確認、境界巡検など、森林官が実際行っている業務について体験してもらいました。



ドローン操作の体験



神通森林官から現地の説明を受ける様子

二日目は、立山・室堂(むろどう)において、高山植物等の保護パトロールを行う立山森林官に同行し、観光客や登山者が多い中、啓発活動や美化活動に取り組みました。また、外来植物除去の取組や、自然保護の重要性について熱心に聞いていました。



標高約2,400mの立山・室堂にて



立山森林官からの聞き取り

当日は、天候により予定していた外来植物の除去作業は行えませんでした。パトロール中には普段なかなか姿を見せないライチョウに出会うことができました。

短期入門終了後の大学生と若手職員との意見交換会では、国有林での仕事や生活面に関する質疑応答に、メモを取りながら耳を傾けていました。また、寺本さんから若手職員に対し、森林官になつてからの目標について質問するなど、積極的に発言を行っていました。

最後に「自然を守るために、地域に貢献できる森林官の仕事は素晴らしいと思います」との感想がありました。

寺本さんの短期入門のレポートは、(公財)富山県ひとづくり財団のHPに紹介されています。



最終日の意見交換会



**地元の公民館主催による  
国有林見学会の開催**

**【南木曾支署】**

七月二十三日、南木曾町読書の柿其国有林内において、地元の公民館北部分館主催による国有林見学会が開催されました。

この催しは、コロナ禍の令和三年に分館役員より、「コロナ禍で地区活動が停滞し、地域行事がなかなか実施できないので、この機会に裏山として存在する国有林を見てみる機会を設けたい」との協力要請があり計画されました。

しかし、台風の接近により中止となり、そのまま幻の行事となっていました。今年度の分館役員により再計画され、五月より打合せを行い、当日は子どもを含め、約五十名の地域住民がマイクロバス三台に分乗し、見学会に参加されました。

国有林内の林道を通行し、車窓より森林を見ていただきながら、目的地の皆伐跡地に到着し、バスを降りて対岸の国有林を眺めていただき、森林や皆伐跡地などにつ



閉会後に新築の柿其森林事務所前で記念撮影

いて説明しました。

参加者からは「こんな高いところまで車で来られて嬉しい」「実際に来て、説明が聞けて良かった」などの感想が寄せられ、また「奥三界はどの方向?」「天然公園はどこ?」など位置関係の質問もありました。

また、帰りには柿其溪谷にある霧ヶ滝も見えていただき、国有林見学会を通じて、地域の皆様に森林や林業等への理解や興味を持っていただける良い機会になりました。

**白馬森林事務所・  
白馬治山事業所が完成しました**

**【中信森林管理署】**

令和四年六月より新築工事を進めていました当署の白馬森林事務所・白馬治山事業所が令和五年八月に完成しました。

新しい森林事務所及び治山事業所は、木造在来軸組工法による二階建てで、一階は合同の執務室、二階が宿舍となっております。二階のフロアリング下地材には、繊維方向が直交するように積層接着したCLT(直交集成板)パネルを使用するなど、建物の床強度と断熱性を確保する構造を採用しています。また、車庫も含め、新築に利用した木材は約十四立方メートルであり、建築物が貯蔵している炭素は十一トントンとなり、CO<sub>2</sub>となります。

また、地元の白馬村をはじめ、地域の方々にも新築のお披露目を行い、今後も白馬小谷地域の森林・林業事業、山地災害の防止等、国有林野事業の推進拠点としての役割が期待されています。



白馬森林事務所・白馬治山事業所の外観

**白馬森林事務所・白馬治山事業所新築工事(長野県北安曇郡白馬村大字北城5598-1)に利用した木材に係る炭素貯蔵量(CO<sub>2</sub>換算)**

延べ床面積	国産材利用量	国産材の炭素貯蔵量(CO <sub>2</sub> 換算)	木材全体利用量	木材全体の炭素貯蔵量(CO <sub>2</sub> 換算)
169.2㎡	11㎡	8t-CO <sub>2</sub>	14㎡	11t-CO <sub>2</sub>

この表示は、林野庁「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」(令和3年10月1日付け林政産第85号林野庁長官通知)に準拠し、この建築物に利用した木材が貯蔵している炭素(CO<sub>2</sub>換算)の量を示すものです。

木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を建築物等に利用していくことは、「都市等における第2の森林づくり」としてカーボンニュートラルへの貢献が期待されています。

【計算式】 木材の材積(m<sup>3</sup>)×密度(t/m<sup>3</sup>)×炭素含有率×44/12=炭素貯蔵量(CO<sub>2</sub>換算) (t-CO<sub>2</sub>)

- 製材 ヒノキ 1.85㎡×0.383 t/m<sup>3</sup>×0.500 ×44/12=1.3 t-CO<sub>2</sub>
- 集成材 スギ 4.09㎡×0.331 t/m<sup>3</sup>×0.500 ×44/12=2.5 t-CO<sub>2</sub>
- 製材 アカマツ 2.71㎡×0.452 t/m<sup>3</sup>×0.500 ×44/12=2.2 t-CO<sub>2</sub>
- 合板 カラマツ 2.35㎡×0.435 t/m<sup>3</sup>×0.500 ×44/12=1.9 t-CO<sub>2</sub>
- 製材 ペイマツ 0.86㎡×0.500 t/m<sup>3</sup>×0.500 ×44/12=0.8 t-CO<sub>2</sub>
- 製材 樹種不明 2.07㎡×0.542 t/m<sup>3</sup>×0.493 ×44/12=2.0 t-CO<sub>2</sub>

計10.7 t-CO<sub>2</sub>

※木材使用量には、事務所庁舎・車庫・宿舍(延べ床面積17.82㎡)2棟に使用した木材使用量を含みます。

〈各地からの便り〉

なかつがわ山の日「山DAY」  
中津川市をあげての二大行事へ

【東濃森林管理署】

八月十一日、当署では山の日に合わせて、中津川市、岐阜県恵那農林事務所、市内の各森林組合、建築組合、恵那農業高等学校、岐阜県森林文化アカデミー等、多くの関係者とともに『なかつがわ山の日「山DAY」』を開催しました。

今回で六回目を迎えるこの行事は、中津川の山で育った木に触れ、木を使ったり、山の中を散策したり、高性能林業機械を見学したりする体験型のイベントで、今年からはメイン会場である当署エリアの他、市内十二箇所にサテライト会場を開設し、森林・木材のことなら何でも体験できるものとなりました。

当署のブースでは、今年も子どもたちに人気の「ミニ椅子作り」を行い、朝早くから受付に長蛇の列ができるほどの盛況ぶりです。予定していた受付人数を急遽増やすなどの対応に追われましたが、恵那農業高等学校の皆さんの応援もあり、スムーズに体験することができました。



高校生スタッフも大活躍したミニ椅子作り

また、恵那農林事務所による「林業機械VR体験」、飛騨五木（株）による「林業カードゲーム」では、当局のホームページに掲載されている「林業従事者写真コンテスト」の作品も展示し、実際の山での仕事をイメージしながら体験やゲームができるようにするなど、参加団体間の連携により、林業を分かりやすく紹介する工夫も行われました。

終日大盛況であった本イベントも含め、これからも地域の関係者の方々とともに、森林・林業の情報発信を行ってまいります。

先人の苦勞と名古屋の  
木材産業の歴史を学習

【名古屋事務所】

八月二十日、あいち森林インストラクター会の会員九名が、今年度第三回目の研修交流会として、熱田神宮にある「熱田神宮こころの小径」でのクスノキやムクノキの大木等の観察を行った後、「熱田白鳥の歴史館」を訪れました。

当日は連日の暑さの中、参加者は若くも暑さでしたが、東濃署管内加子母裏木曾国有林から出材された大ヒノキ年輪板や、三ツ紐伐りの写真、木曾式伐木運材図会や写真等による白鳥貯木場の今昔などについて職員から説明を受け、昭和初期の斧や鋸による伐採、集材、筏下りによる搬送などのビデオを鑑賞しました。

参加者からは、「名古屋の木材産業の歴史が分かった」「写真が多く、年代別によく整理されていて分かり易かった」「先人の苦勞を感じた」「展示の仕方が工夫されている」「この施設そのものの存在を知らなかったが周りにPRしたい」



熱田白鳥の歴史館の見学

など、心強い感想が寄せられました。

今後より多くの市民の方々に対し、当歴史館の認知度を高める取組を行うとともに、木材産業発祥の地「熱田白鳥の歴史」について発信していきたいと思えます。



### 中央アルプス駒ヶ岳で 植生復元作業を実施



#### 【木曽森林ふれあい推進センター】

九月六日、上伊那郡宮田村の黒川国有林の木曽駒ヶ岳で、平成十七年から当センターが主体となつて行っている植生復元作業を実施しました。

この取組は、登山者の入込増加が誘因と考えられる踏み荒らしや大量の降雨、融雪水、凍結、融解による砂礫の移動、強風等が植生の荒廃に拍車をかけていることから、登山道周辺の植生復元を目的に植生マットの敷設を行っているものです。

今年度は、長野県上伊那地域振興局、駒ヶ根市、宮田村、南信署及び木曽署の職員の協力を得て、総勢二十六名で作業を行いました。

事前に植生マットの運搬や播種用の種子採取を地元森林事務所等の応援により実施し、当日使用する資材は、駒ヶ岳に至る稜線沿いの駒ヶ岳管理センター（避難小屋）に仮置きさせていただきました。作業は、駒ヶ岳ロープウェイ千



小雨の降る中での植生マット敷設作業

畳敷駅から駒ヶ岳へ向かう途中にある天狗荘付近の標高約二、八七〇以上の登山道沿いで行い、小雨が降る中での作業ではありましたが、強風に見舞われることもなく、無事に予定した植生マット敷設と種子播種を終えることができました。

作業地付近には近年の植生復元箇所もあり、少しずつではありますが高山植物が回復している状況も見られることから、今後関係機関と連携して高山植物の保護・復元に取り組んでまいります。

### 五加小学校五年生の皆さんが クイズや実験で楽しく学習



#### 【技術普及課】

九月八日、長野県千曲市立五加小学校五年生の児童七十六名が、森林のはたらきを学習するため、中部森林管理局庁舎を訪れました。

初めに、職員が長野県の森林率や国有林のこと、森林が果たす役割等を説明し、その後、二チームに分かれて「ネイチャーゲーム」と

「森林クイズ」を実施しました。このゲームは、一人一枚「森林、街、ミミズ、ウサギ」などが描かれたカードを手に、「食う・食われる」など自分と関係の深い相手を探してペアを組み、これを繰り返すと最後には大きな一つの輪になるというもので、一見関わりのない生き物同士も、多くの生き物や環境を介して全て繋がっていることを実感してもらうことができました。また、クイズは「木から作られたものか」を○×形式で答え、意外なものが木で出来ていることに驚いた様子も見られました。



雨水のゆくえを真剣に観察する様子

最後に「雨水のゆくえ実験」を行い、森林のある山とない山に見立てた二つの実験装置に、じょうろで一気に雨を降らせ、どんな違いが出てくるかを観察してもらいました。

「森林がないと、水がしみ込まないし、濁っていて汚い」「森林の方は水がきれい！地面の下からゆっくり水が出てくる」など、気づいた点を口々に発表してくれました。

帰り際に、「ゲーム楽しかった！」「森林って重要なんだね」と、森林に興味を示す声が多く聞かれました。この学習が今後の森林・林業の学びの一助となれば幸いです。

〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ  
「私の森語り」  
もりかた  
「森で愛ましよう」  
様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。




2023 ミス日本  
みどりの大使  
かみむら  
上村 さや香

■自己紹介

皆さん こんにちは♪  
二〇二二ミス日本みどりの大使上村さや香です。二月に中部森林管理局さんで行われた「中部の森林林業従事者写真コンテスト」にて審査員を務めさせていただきました。

一二〇点を超える応募作品の中で、伐倒をする姿やお昼休憩でお弁当を食べる姿、先輩後輩の仲間の姿、林道整備の方々の姿、働く林業機械のカッコいい姿、林業女子の姿など臨場感あふれるお写真の数々が心に残っています。

■活動内容

そんな皆様のお力になるべく、

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

私は国産木材を使うことの大切さや森の循環の素晴らしさを、特技の作詞作曲を活かして、オリジナルの歌でわかりやすく伝える活動を行っています。全国各地の林業の現場、森林に関わる方々から見聞されたことを元に、オリジナル曲「森で愛ましよう」を発表し、全国で弾き語りしています。

そんな私には心づよい相棒、完全国産木材ギターがあります。このギターは、長野県松本市にある楽器メーカー「デイバイザー」さんによる世界に一つだけのギターです。マスタービルダーと呼ばれる卓越した技術を持つギター職人たちの手作業により、この夏に完成しました。

私は今年、石川県の「能登ヒバ」アンバサダーに就任しています。そこでオリジナルギターの表面であるトップ材、そしてネックの後側は能登ヒバを使用。サイドとバックは山桜、ヘッドと指板は黒

柿が使われていて、完全国産木材一〇〇割のギターです！

ギターにはこだわりポイントが五つあります。ピックガードに「Sayaka」と名前を入れたこと、周りのラインも緑にしたこと、ポジションマークも緑で隠れクローパーをつけたこと、ブリッジピンも緑にしたこと、緑の羽根マークをヘッドに入れたことです。とことんみどり“にこだわりました。

全国各地で歌とギターを披露して楽しいことは、歌い終わったら後に「なんの木材？」「黒柿！すごい！」「持ってみてもいい？」と林業関係者の皆さんが話しかけに来てくださることです。林業関係の皆様視点でのお話はとても興味深く、そこにまたたきさんの気づきや学びを頂戴しています。

私が弾き語りしているとところに遭遇した是非、国産木材のお話を一緒にしながら、実際に私のギターを見にきてください♪

■メッセージ

「森で愛ましよう」の二番に「ねえ、ちよつと休憩しよう 木曜日 今日のはどんな風に笑いあつたかな」という歌詞があります。

この歌詞の元になっているのは、林業従事者写真コンテストの皆さんの姿です。広大な自然と闘う林業従事者の皆さんの安全を守るため、「休憩」の時間がいかに大切かということを学びました。そして、各々がコーヒートを淹れたり、お弁当を食べたり、仲間と笑い合ったりと思いいの時間を過ごしリフレッシュし、またお仕事へ。

日本の豊かな森林を守ってくださっている皆さんへの尊敬の気持ちを込めた楽曲になっています。私はこれからも、皆様の努力や工夫、取組をわかりやすく発信していきます。読者の皆様とどこかでお会いできることを楽しみにしております。それでは皆様「森で愛ましよう！」

○連絡先

一般社団法人ミス日本協会  
〒一六〇一〇〇二三  
東京都新宿区西新宿二一二一  
京王プラザホテル南館九階  
<https://www.missnippon.jp/>



松本市の  
ギター職人の  
皆さんと



フोटコン表彰式に出席

木づかいが 森をよくする 暮らしを変える

# ウッド・チェンジ

WOOD CHANGE

「使って、使って、植える」  
「自然の恵み(木)は、  
豊かな自然を創り、  
私たちの暮らしを豊かに繋がります。」

使う... 植える

育てる

伐る

森の資源の循環利用

「ウッド・チェンジ」は、  
身の回りのものを木に変える、  
木を暮らしに取り入れる、  
建築物を木造化・木質化するなど、  
木の利用を通じて持続可能な社会へ  
チェンジする行動です。

木材利用促進本部  
農林水産省 総務省 文部科学省 国土交通省 経済産業省 環境省

10月は木材利用促進月間



完全国産木材ギターを製作

ギターの  
音色と歌を  
こどもたちに



高性能林業機械の  
素晴らしさを  
体感

シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【南木曾支署 柿其森林事務所】

森林官 井上智広

柿其森林事務所は、長野県の南西部に位置する木曾郡南木曾町に所在し、町内を流れる木曾川の右岸側に位置する柿其、三殿向、田立国有林の約五、四〇〇



急峻な地形の柿其国有林

管内の国有林は、ヒノキを主とした人工林が約六割、残りの

約四割が木曾ひのきを含んだ天然林となっています。天然林は岐阜県境を中心に分布しており、「田立の滝群」などその一部は、二〇二〇年三月二十七日に中央アルプス国定公園に指定されています。

当事務所は、森林官一名のため、支署職員等の応援をうけながら、生産、造林、土木事業等の現場監督業務、森林の調査や境界巡検・巡視など、様々な業務を行っています。

生産事業の現場は、急峻で集材距離が長い為、林地によっては集材機とタワーヤードを使ったハイブリッド集材を実施し、造林事業では、造林初期段階の保育におけるコスト削減を図るため、伐採・造林一貫作業システムを採用等、生産性向上に取り組んでいます。

また、柿其国有林にある「柿其



柿其川本流にある「ねじだる」

溪谷」、田立国有林にある「田立の滝」は、木曾森林ふれあい推進センターが木曾地域を訪れる観光客を対象として発行している「木曾路ナチュラルトレッキングMap」に詳しく掲載してありますので、是非ご覧いただき、お越しください。

先日、地元公民館主催の国有林見学会の際には、新築の当事務所にもお立ち寄りいた



き、「普段は通りすがりに見るだけだったが、新しくきれいになった森林事務所を間近で見ることができて良かった」と地域の方々に喜んでいただきました。

■未来の担い手へのメッセージ  
管轄する国有林を森林官として向き合っていくことは容易なことではありませんが、自然の中に身を置いて、当たり前にある空気、水を作り出す森林を、次世代へと受け渡す役割があります。自然豊かなこの職場、皆さんもいかがでしょうか。



請負事業者へ説明する筆者(左)



シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第30回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「伊勢湾台風」その二

昭和三十四年九月の「伊勢湾台風」(台風十五号)は未曾有の大災害となりましたが、これに対して政府も民間も、そして国有林も復興に向けた取組を積極的に進めることとなります。名古屋営林局では管内の営林署での木材の公売を一時的に停止して木材価格の高騰防止と災害復旧用材の確保を図る一方で、発生した高潮の対策(決壊した堤防の締切など)のため

名古屋営林局前に到着したトラックと復旧用材



めの杭用丸太・厚板資材・仮設住宅用材等の確保のために各営林署で緊急生産を行いました。これらの生産・確保には新城、岡崎、岐阜、中津川、下呂の各営林署のほか、長野営林局の岩村田、長野営林署、更には熊本・高知の各営林局からも協力を得ることとなりました。この緊急の生産作業には各地の地域住民・消防団からの協力もいただきました。これらの木材は名古屋市および愛知県に引き渡され、復興に用いられました。

名古屋・長野の各営林局管内で大規模に発

スヶガ谷国有林での復旧用材の緊急生産(現在の岐阜森林管理署管内)



昭和41年当時の三浦実験林



三浦実験林の全貌(写真手前・平成10年撮影)



生した山地崩壊については治山事業所の設置による災害復旧が行われました。風倒木被害についても、被害木の調査と処理に大きな努力が払われることとなりました。特に未曾有では昭和三十六年に襲来した第二室戸台風の被害と合わせて風倒被害跡の更新が重要な課題となり、昭和四十一年に「三浦実験林」が設定され、天然更新技術についての研究が継続的に行われていくこととなります。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

# 中央アルプス最南端に広がる天然林

恵那山 生物群集保護林

## 設定目的

恵那山(二、一九二)の上部にはシラビソ等の亜高山帯針葉樹の群落があり、林床の一部には希少種であるオサバグサが生育しています。

これら山地帯上部から亜高山帯までの植物群落を一体的に保護・管理しています。

## 地況・林況

恵那山は、長野・岐阜県境に位置し、中央アルプス(木曾山脈)の最南端とされている山です。気候は太平洋側気候に属しており、地質は中・古生層及び濃飛流紋岩類が分布しています。

また、岐阜県恵那地方と愛知県北東部、長野県の一部にまたがる美濃三河高原のうち、恵那山地に細分される大起伏山地の一端で、恵那山はこの高原の最高峰となっています。

所在地  
岐阜県 中津川市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

昨年度の「中部の森林 林業従事者写真コンテスト(フォトコン)」において、「優秀賞」を受賞された写真に写る中村さんの「造材日和」ですが、実は左側の写真もご応募いただき、こちらも人気がありました。

受賞は、応募者一名につき一作品までと決まっております、点数の高い右側の写真が選ばれましたが、



作品名：「造材日和」

「フォトコン作品からもっと伝えたい林業の魅力！」

「中村さん」

現在の所属先は有限会社早川実業ですが、以前から一緒に働いてきた仲間と一緒に働いてきた仲間と一緒なので、チームワークが良くて働きやすいです。

フォトコン受賞後、財団の方から連絡をいただき、信州の森で働く姿などを冊子で紹介することにになりました。先日、現場まで取材に来ていただきましたが、完成した冊子を見て、林業に興味がある方々の参考にしてもらえたら嬉しいです。

中村さん

林業の現場はいかがですか？

九月十六日、長野市内で開催された一般財団法人長野県林業労働財団(以下「財団」)主催の「林業共同就職説明会」において、林業への就業を希望される方に丁寧の説明する中村さんの姿がありましたので、少しお話を伺いました。



林業共同説明会の様子 (中村さんは一番右のブースで説明)

造材前の笑顔の先に、見守る先輩や仲間の存在を感じさせる素敵な作品です。

「野間さん」

大学卒業後、都内で様々な仕事を転々としてきたが、昔から自然に対する憧れが強く、転職を考えていた時に「長野で林業」だと思い、コネやツテが無い中で、財団に相談し、多くの出会いがあり、森林組合で働くことに。先輩方の見よう見まねで林業をやってきて、もちろん先輩に注意されることもありますが、ケガもあるけど、一生懸命やっていると思ってくれます。

林業は楽しくて仕方ない！

野間さん

林業の魅力を教えてください！

十月三日、塩尻市内で開催された財団主催の「林業基本講座」には、同じく「優秀賞」を受賞された野間さんの姿がありました。作品内で「朝の準備」をする南佐久南部森林組合の野間さんは、東京出身で林業を始めて今年で五年目。昨年度林業作業士の研修が修了しており、講座では「先輩からのエール」として、林業一年目の受講生に自身の職歴や林業との出会い、作業中の出来事、趣味である「トレイルランニング」のことなど、笑顔と軽快なトークで伝えていました。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、[migoro@maff.go.jp](mailto:migoro@maff.go.jp)まで電子メールでお送りください。)

9月16日(土)、長野市内で開催された「林業共同就職説明会」の会場に、写真パネル数点を展示していただきました！

林業の現場で働くあらゆる場面を切り取った写真たちは、未来の林業に向けて積極的に取り組む方々を後押ししてくれる存在でも感じていきます。本コンテストにご参加いただいた皆様に改めて感謝申し上げます！

これからもフォトコン作品から繋がる林業の魅力をお伝えします！

取材協力  
一般財団法人  
長野県林業労働財団  
<https://nrinrou.net/>



作品名：「朝の準備」



企業組合山仕事創造舎の宮田さんとともに受講生と意見交換を行う野間さん (中央)

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

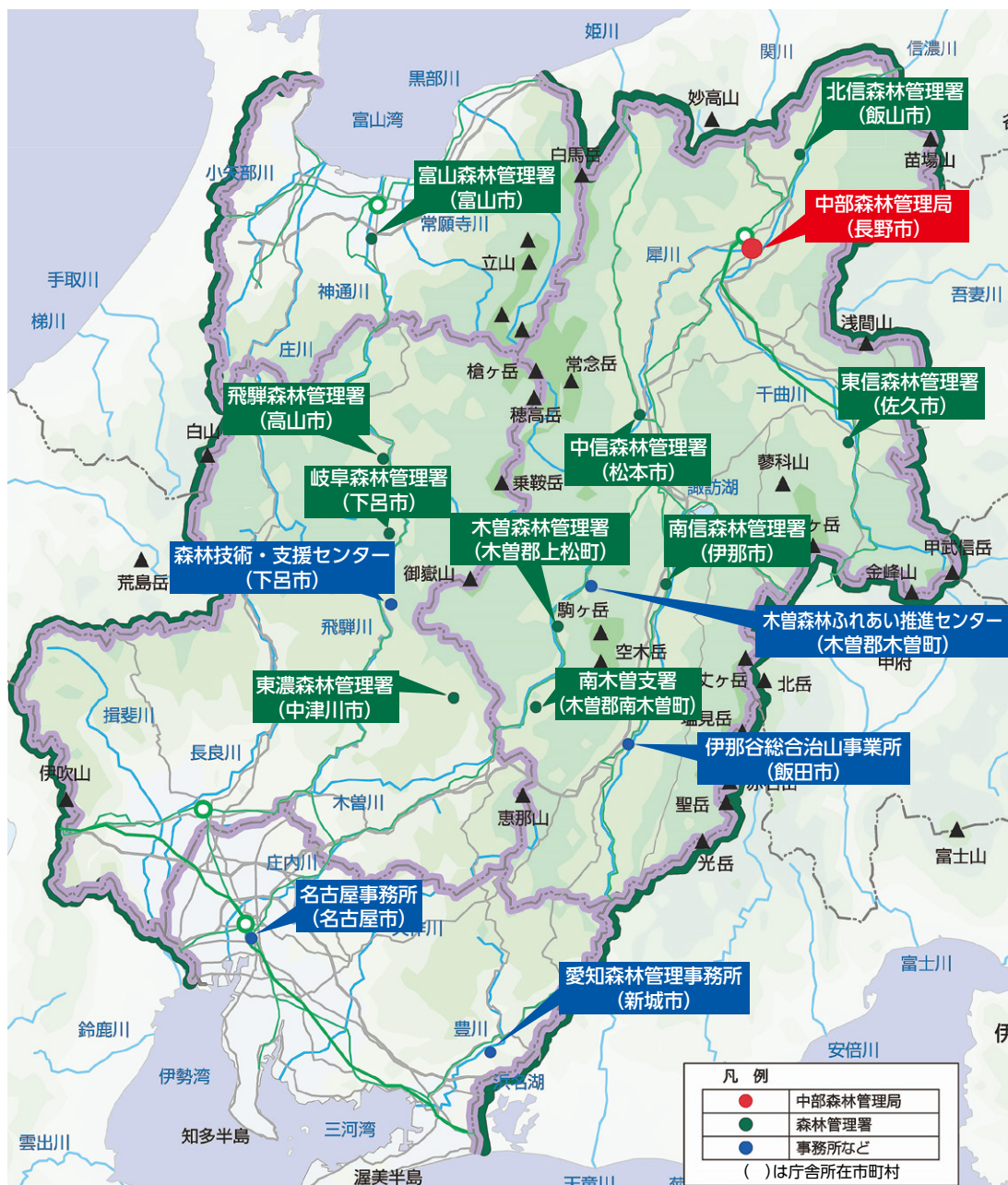


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。